



横浜市議員

竹内やすひろ

# 市政報告

ヒットエンドラン通信



## 横浜美術館のが全館リニューアルオープン

### 横浜市会芸術・文化議員懇談会議員で視察 “おかえりヨコハマ”



横浜美術館が全館リニューアルオープンをしました。先日、横浜市会芸術・文化議員懇談会議員として横浜美術館リニューアルオープン記念展にお伺いしてきました。展示は「おかえりヨコハマ」とのことで“横浜”をキーワードに、美術コレクションを立ち返る展覧会となっています。当日は、蔵屋美香館長が生まれ変わった館内の特徴や記念展について説明してくださいました。

横浜美術館は、1989年11月3日に開館。迫力のあるシンメトリーな外観と、吹き抜けの開放的な「グランドギャラリー」が特徴。9つの展示室のほか、多彩なワークショップを行うアトリエ、約24万冊の蔵書がある美術図書室なども揃う、国内でも有数の規模を誇る美術館です。国際的な港町、横浜にふさわしい美術館として、開港以降の近・現代美術を幅広く扱い、14,000点を超える（2024年3月現

●新しい船出となるこの機会に、当館コレクションの名作の数々を新たな視点で紹介され、加えて、横浜市歴史博物館、横浜開港資料館、横浜都市発展記念館、横浜市民ギャラリーなど、主に市内の施設が所蔵する、コレクションへのまなざしを豊かにしてくれる作品や資料も展示されています。

作品を読み解くための鍵は「横浜」。そしてリニューアル後の横浜美術館の活動理念の柱である「多様性」。今回は「多様性」という観点で、横浜にまつわる作品の中でこれまであまり注目されることのなかった存在—開港以前の横浜に暮らした人びと、女性、子

在) 所蔵品からテーマを立てて紹介するコレクション展や、バリエーションに富んだ企画展を開催しています。

今回のリニューアルでは、エントランスホール「グランドギャラリー」を「じゆうエリア」として拡充。展覧会の観覧者以外でも無料でくつろげるスペースが増設されています。建物や作品を見ながら併設のカフェの飲み物を座って飲むことができる場所や子どもが靴を脱いで楽しめるエリア、彫刻の近くに座ってくつろげる大階段などが作られています。「おかえりヨコハマ」のタイトルは、「3年ぶりに横浜美術館が帰ってきた」という意味と、「異なる時代にいろいろな地域からやってきて横浜に暮らした人々、また現在暮らす様々な人たちを、あらためて『おかえり』と言って迎え入れたい」という希望が込められているとの事でした。



も、さまざまなルーツを持つ人びとなど—にあらためて光をあてているとの事です。これにより、おなじみの作品や横浜の歴史にたくさんの新しい発見をもたらします。「こうしてローカルの歴史を深掘りすると、世界の歴史もきっと違って見えてきます。」とは蔵屋館長。会場内には、子どもも一緒に楽しめる「子どもの目でみるコーナー」を設けられ、横浜美術館の活動の柱のひとつである教育普及事業も開催されます。



横浜市議員

竹内やすひろ (たけうちやすひろ)

神奈川区政務調査事務所

横浜市神奈川区大口通り127-16コスガビル1F

TEL : 045-716-6822 FAX : 045-716-6823

ホームページ <https://takeuchi.180r.com>

E-mail [mail@takeuchi.180r.com](mailto:mail@takeuchi.180r.com)

政策経営・総務・財政委員会副委員長

健康づくり・スポーツ推進特別委員会

公明党神奈川本部幹事長代理

公明党神奈川本部国会連絡局長

公明党東横浜総支部長

公明党神奈川支部 支部長

防災士

公式ホームページ

<http://takeuchi.180r.com>



# 横浜市 市政運営の基本方針と予算案「災害に強いまちづくり」について

市政運営の基本方針と予算案が発表をされ「災害に強いまちづくり」については、これまで公明党横浜市会議員団が要望・提案してきたことが多く反映されています。

## ◎『大規模災害から市民の皆様をお守りする。安心・安全な暮らしを実感できるまち』

いつ起こるともわからない大規模地震から市民の皆様の命を守るため、ソフト・ハードの両面から地震防災対策を大幅に強化します。「地震防災戦略」を刷新し、戦略に掲げた取組を一気に進めていく。「発災前からの備え」を強化します。

## ◎『安心して避難生活を送ることができる環境をつくる』

●小・中学校体育館の空調設置計画を5年前倒しし、11年度までに、残る約8割の未設置校350校への設置を完了させます。小・中学校の校舎や体育館に残る約3,000基の和式トイレについては、計画を3年前倒しして、11年度までに洋式化を完了。また、公園トイレの洋式化も加速させ、10年度までに約450基の洋式化を完了させます。

●トイレ・キッチン・ベッドからなるTKBユニットを全国で初めて導入し、被災状況に応じて柔軟かつ機動的に対応することで避難者の生活を支援。避難所の防犯対策を強化するため、全ての地域防災拠点に簡易防犯カメラや防犯ブザーを配布。

●飲食料の備蓄も大幅に強化していきます。避難想定者の備蓄の確保量を、これまでの「1日あたり2食を1日分」から「1日あたり3食を3日分」まで増やし、同時に、民間事業者と連携し、市場に流通する飲食料や生活必需品を、災害時の「流通備蓄」として確保します。

また、栄養補助食や衛生用品、介護食としての流動食やきざみ食、プライバシー確保のためのパーティションなど、これまで備蓄していなかった新たな品目を配備。

●災害時に配慮が必要な方への支援として、妊産婦・乳児が避難しやすい母子専用の福祉避難所を新規に開設するほか、特別支援学校等への非常用ポータブル電源の整備を

加速するなど、医療的ケアが必要な児童生徒の安全を確保します。また、社会福祉施設等において、災害時の電源対策を進め



るため、電気自動車の導入を支援するほか、トイレ環境を確保するため、マンホールトイレの設置を支援します。

●横浜市初の「広域防災拠点」を整備。大規模災害時に物資や応援部隊の受入れの要となり、市民の皆様がいち早く支援を届けるため、旧上瀬谷通信施設地区での拠点整備事業に着手。新たに、本市最大面積となる 4,000 m<sup>2</sup>の備蓄庫を整備し、加えて、市外からの支援物資を一括して受け入れる 5,000 m<sup>2</sup>の拠点の整備に向けて準備を進めます。市域の既存の取次拠点を經由せず、地域防災拠点に物資を届けるようにすることで、物資の到着にかかる時間を7時間以上短縮します。自衛隊や警察、消防、医療従事者などの応援部隊もこの拠点に集結させ、市内全域で迅速かつ効果的に救助・支援活動が行える体制を整えます。同時に、「広域防災拠点」の機能を最大限に発揮させるため、東名高速道路と接続する新たなインターチェンジの整備も進めます。



●災害時の救命・救助活動を支え、災害発生後の速やかな復旧・復興につなげていくため、インフラの強靱化を図ります。緊急輸送路は災害時の避難・救助・物資運搬のための生命線です。輸送ネットワークを維持するため、緊急輸送路に隣接する沿道がけ対策や、電柱倒壊による被害を防ぐための無電柱化を進めます。発災時の安定的な水の確保は何より重要です。避難所や病院などの重要施設に接続する上下水道管の耐震化を進めるとともに、避難所となる地域防災拠点への耐震給水栓の設置を促進し、発災直後から給水ができるようにします。

●気候変動の影響により全国で水害が激甚化・頻発化しており、横浜においても1時間あたり50mm以上の強い雨の発生回数は約40年前と比較して2倍に増加しています。市民の皆様の被害を最小限にとどめるため、公共下水道だけでなく、水路・道路側溝など44万以上の排水施設を精緻にモデル化した、全国初の「横浜型浸水シミュレーション」を活用し、浸水対策を推進します。浸水シミュレーションにより、浸水リスクが最も高い252地区を選定し、地区内の雨水管やその地区とつながる16幹線の優先整備に着手します。